

病害虫発生予察特殊報第1号

平成17年6月10日
三重県病害虫防除所

本県において、トルコギキョウのえそ輪紋病 (*iris yellow spotvirus*) の発生が、初めて確認されたので特殊報として発表します。

- 1 病害虫名 : I Y S V (*iris yellow spotvirus*) によるトルコギキョウのえそ輪紋病
- 2 発生確認植物名 : トルコギキョウ
- 3 発生確認地域 : 度会郡御園村
- 4 発生経過
平成16年12月に度会郡御園村の施設栽培のトルコギキョウにおいて、葉にえそ斑点や茎にえそ斑を示す株が確認されました。
その症状から病害の疑いがあったため、三重県科学技術振興センター農業研究部において検定を進めていたところ、RT-PCR法により平成17年4月27日に県内では未発生の *iris yellow spotvirus* (I Y S V) が検出され、これによる病害であることが確認されました。
本ウイルスによる病害は、国内では平成8年に千葉県のアストロメリアで発生したのが最初で、平成13年に佐賀県のトルコギキョウで発生が認められ、その後、千葉県、静岡県、大分県、長野県、福岡県、高知県、神奈川県、埼玉県、岡山県、栃木県で発生が確認されています。
- 5 病徴
発生圃場で観察された主な症状は、葉の黄化、えそ斑点、茎のえそ斑などの症状です。
- 6 病原ウイルスの性質及び伝染
本ウイルスはネギアザミウマにより媒介され、一度ウイルスを獲得したネギアザミウマの個体は終生ウイルスを伝搬します。
なお、管理作業による汁液伝染、土壌伝染、種子伝染等の有無については不明です。
- 7 ネギアザミウマについて
ネギアザミウマは、ネギ、タマネギなどの主要害虫ですが、寄生植物は極めて多く、体長は1.1~1.6mm、体色は黄色のものから褐色のものまで変異が見られます。
本種の発育は非常に早く、産卵された卵は20で20日間、25で16~17日間で成虫となり、発生の最盛期は6月~9月で、この期間に高温少雨の気象条件に推移すると多発生となります。
- 8 感染植物
リンドウ科 (トルコギキョウ)、アストロメリア科 (アストロメリア)、ユリ科 (タマネギ、ネギ、ニラ、リーキ)、ヒガンバナ科 (アマリリス、ユーチャリス、クリビア (クンシラン))、アヤメ科 (ダッチアイリス)、ヒユ科 (センニチコウ) が知られていますが、現在のところ発病の見られた植物はトルコギキョウとアストロメリアだけです。
- 9 防除対策
(1) 本病が疑われる株は二次伝染源となる可能性があるため、速やかに抜き取り埋没又は袋などに密封して処分してください。
(2) 本ウイルスを伝搬するネギアザミウマの防除対策をしてください。
(3) 施設栽培では、開口部に防虫ネット (1mm目以下) などを張り、施設内へのアザミウマ類の侵入を防いでください。
また、栽培終了後においては、施設を密閉して蒸し込みを行いアザミウマ類を死滅させ、施設外への分散を防止してください。
(4) 周辺の雑草はウイルスの発生源やアザミウマ類の繁殖場所となるので、除草を徹底してください。

10 トルコギキョウのIYSVによる症状



葉の黄化・えそ斑点



葉・茎のえそ斑



葉のえそ斑



葉・茎の病徴

(写真提供：三重県科学技術振興センター農業研究部)